

論 文

小児の子後不良の病名告知後における 母親の危機状態の分析

— 母親の危機克服を遅らせた要因 —

小松江美子*・広瀬 育子*・西村真実子**

* (金沢大学医学部附属病院)

** (金沢大学医学部保健学科)

Psychological Analysis of a Mother with Child's Malignancy :
Factors which Delayed the Mother to Pass the Crisis.

Emiko Komatu, Yasuko Hirose and Mamiko Nisimura
Kanazawa University Hospital
Department of Nursing School of Health Sciences, Kanazawa University

要 旨

予後の不良な子供の病気(悪性リンパ腫)を受容するまでに長期間を要した母親の心理的变化を分析し、その受容までの過程を遅らせた要因を明らかにし、援助のあり方について考察した。母親の心理的状态の変化については、患児の看護記録に記載されている母親の行動・会話に関する事項および定期的に行った面談の記録より把握した。なお心理変化とそれに及ぼす要因の分析はアグレアとメズイックおよびフィンのモデルを参考とした。母親の危機克服を遅らせたのは、子供の病気の確定診断までにもった母親のゆがんだ思い込みであり、入院後の治療中においてもそれがさらに強くなり悪循環した事例であった。このことは、アグレアとメズイックの言う「出来事についてのゆがんだ知覚」がその後の危機克服の過程に大きく影響することを実証するものであった。なお、援助の主体は受容と傾聴にあり、それによって信頼関係を得ることができた。